

看護学 DP ルーブリック

評価日 年 月 日 (年次) 学籍番号 氏名

領域	観点	到達度					
		レベル 6 (発展)	レベル 5 (活用)	レベル 4 (応用)	レベル 3 (基礎)	レベル 2 (導入)	レベル 1 (入門)
知識・技能	対象の生物学的反応	心身の異常とそれに伴う反応、治療に伴う反応を捉えたり、今後に起こり得る心身の変動やそれに伴う治療に対する反応を予測したりするための知識を、顕在・潜在的な健康課題をもつあらゆる対象に適用し、さらに、知識の深化に向けて最新の知見を自ら探索している	心身の異常とそれに伴う反応、治療に伴う反応を捉えたり、今後に起こり得る心身の変動やそれに伴う治療に対する反応を予測したりするための知識を、顕在・潜在的な健康課題をもつあらゆる対象に適用できる	心身の異常とそれに伴う反応、治療に伴う反応を捉えたり、今後に起こり得る心身の変動やそれに伴う治療に対する反応を予測したりするための知識を、関わった対象に適用できる	正常な心身の仕組みや機能、心身の異常に伴う反応、治療に伴う反応、今後起こり得る心身の変動を説明できる	正常な人間の心身の仕組みと機能について説明できる	医療や健康に関心をもち、専門知識を修得するための基礎学力を有している
	対象の生活と環境	人間の成長と発達段階、発達課題の特徴、対象を取り巻く環境と生活を踏まえ、看護の対象となる個人と集団を生活者として全人的にとらえ、より深く対象を理解する方法を探究しつつ看護の対象への洞察を深めている	人間の成長と発達段階、発達課題の特徴、対象を取り巻く環境と生活を踏まえ、看護の対象となる個人と集団を生活者として全人的にとらえることができる	人間の成長と発達段階、発達課題の特徴、その人を取り巻く環境と生活を踏まえ、看護の対象となる個人と集団を生活者として全人的に捉えることができる	看護の対象となる人の成長と発達段階、発達課題の特徴、その人を取り巻く環境と生活を踏まえ、身体的・心理的・社会的側面からとらえることができる	人間の成長と発達段階、発達課題の特徴、人間を取り巻く環境や生活状況の健康への影響に関する基本的知識を説明できる	人間の成長や発達に関心をもち、専門知識を修得するための基礎学力を有している
	看護援助の実践	安全・安楽を確保し、観察と判断を繰り返しながら、多様な健康課題を有する個々の対象に応じた看護援助技術を原理・原則を踏まえたうえで効果的に実践できる	安全・安楽を確保し、観察と判断を繰り返しながら、特定の健康課題 ^(※) を有する個々の対象に応じた看護援助技術を原理・原則を踏まえて実践できる ※特定の健康課題：健康の保持増進・疾病予防、急激な健康破綻・回復過程、慢性・不可逆的健康課題、エンドオブライフ期	安全・安楽を確保し、観察を行いながら、特定の健康課題 ^(※) を有する個々の対象に応じた看護援助技術を原理・原則を踏まえて実践できる ※特定の健康課題：健康の保持増進・疾病予防、急激な健康破綻・回復過程、慢性・不可逆的健康課題、エンドオブライフ期	安全安楽を考慮し、観察を行いながら、日常生活援助の基本技術を用いて実践できる	安全・安楽に関する知識をもち、日常生活援助の基本技術の原理・原則を説明できる	保健医療福祉分野の専門知識や技能を学ぶ意欲を有している
	地域包括ケアシステムの推進	人々が地域で自分らしく生きるため、地域の資源・サービスの活用と多職種連携協働の視点を踏まえ、多職種間で現状の方法を批判的に検討したり、最新の知見を活かしたりしながら、支援を提案できる	地域ケア体制、保健医療福祉制度、在宅医療に関する知識を用いて、あらゆる人々が地域で自分らしく生きるための看護を実践するとともに、地域の資源・サービスの活用と多職種連携協働の視点を踏まえて支援を提案できる	地域ケア体制、保健医療福祉制度、在宅医療に関する知識を用いて、看護の対象となる個人が地域で自分らしく生かされるよう、病院一施設一地域など療養と生活の場の移行を円滑に行うための看護を実践するとともに、地域の資源・サービスの活用と多職種連携協働の視点を踏まえた支援を提案できる	地域ケア体制、保健医療福祉制度、在宅医療に関する知識を用いて、人々が地域で自分らしく生きるため、多職種とともに看護職が提供できる支援について説明できる	他職種の役割を踏まえて看護の役割を説明できる	社会の動向に関心をもち、地域社会に貢献する意欲を有している
思考力・判断力・表現力	倫理観と使命感	看護専門職としての人類愛に満ちた高い倫理観と地域社会に貢献する使命感を基盤として、人々の多様な価値観・信条や生活背景、人生観を尊重し、看護実践の根拠と方法の説明を行い、意思決定を支えるとともに、権利を擁護するために現状の課題への解決策を提案できる	看護専門職としての高い倫理観と地域社会に貢献する使命感を基盤として、人々の多様な価値観・信条や生活背景、人生観を尊重し、看護実践の根拠と方法の説明を行い、意思決定を支援することができる	看護専門職としての誇りと自覚をもち、倫理観を高めながら、多様な価値観・信条や生活背景・人生観を有する対象を理解し、看護実践の根拠と方法の説明を行い、意思決定を支援することができる	看護専門職になるという自覚をもった上で、看護の対象となる人々を尊重しながら、看護実践の根拠と方法を説明し同意を得ることができる	看護学生としての自覚をもち、人間の尊厳と権利の擁護、プライバシーの保護、個人情報の保護、守秘義務などの基本的知識を説明できる	人間の尊厳を守る姿勢、他者への思いやり、誠実さ、責任感を有している
	課題分析	理論的知識や研究成果から得た有用な情報を活用し、看護の対象の多様性を踏まえた情報を包括的に分析・解釈・推論することで、あらゆる対象に必要な援助を創造することができる	理論的知識や研究成果から有用な情報を取り出し、それを活用してデータを適切に分析・解釈・推論することで対象と地域社会の健康課題と援助の必要性を判断し、提供する看護の方法を選択・決定することができる	根拠ある知識を活用してデータを適切に分析・解釈・推論することで対象の健康課題と援助の必要性を判断し、提供する看護の方法を選択・決定することができる	カルテや患者への問診・身体診察を通して必要な情報を収集し、複数のデータを分析・解釈することで提供する看護の方法を選択・決定することができる	課題解決に必要な正確な情報を収集し、事象を多角的に問い、論理的に自分の考えを説明できる	諸課題を科学的に思考・探究し、解決に貢献する意欲を有している
	専門性探究	学士力を基盤として看護学の発展を追求する意欲をもち、既存の研究成果をクリティックして看護の場で適用するとともに、自ら実施した研究成果から得た実践への示唆を国内外の学会において公表することができる	学士力を基盤として看護学の発展を追求する責任を自覚し、既存の研究成果をクリティックして看護の場で適用するとともに、看護現象を探究するために実施した研究の成果から実践への示唆を提案できる	学士力を基盤として看護学の発展を追求する責任を自覚し、研究に関する基本的な知識を用いて既存の研究成果をクリティックし、看護の場で適用することができる	看護学への探究心を持ち、データベースを用いて文献を取捨選択し、学修場面に活用できる	看護学への探究心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している	看護学への探究心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している
	コミュニケーション	看護の対象となる個人や集団を取り巻く多様な立場にある人や関係主体に対して、円滑にコミュニケーションを図り、ケアリングの観点から対象を中心とした協働関係を発展させることができる	看護の対象となる個人や集団と、お互いを尊重しながら自己・他者・相互理解に基づいたコミュニケーションを図り、援助的・協働的関係とケアリングを成立させることができる	看護の対象となる個人を尊重しながら自己・他者・相互理解に基づき、ケアリングの観点から援助的関係を形成し、協働的関係を築くためのコミュニケーションを成立させることができる	看護の対象となる個人を尊重しながら自己・他者・相互理解に基づいたコミュニケーションを図り、ケアリングの観点から援助的関係を形成することができる	相手を尊重しながら自己・他者・相互理解に基づいたコミュニケーションを図ることができる	他者と円滑にコミュニケーションできる能力を身に付けている
主体性・協働性	リーダーシップと自己研鑽	看護専門職として自発的に能力向上に取り組み、対象の課題解決に向かって保健医療福祉チームの一員として自ら行動を開始し、多職種のメンバーと積極的に対話するとともに、チーム内の対話を促して意見や価値観の相違を調整しながらチームをまとめ、課題解決に貢献できる	看護専門職として自発的に能力向上に取り組み、対象の課題解決に向かって保健医療福祉チームの一員として自ら行動を開始し、多職種のメンバーと積極的に対話するとともに、チーム内の対話を促して意見や価値観の相違を調整しながらチームをまとめることができる	看護専門職として自発的に能力向上に取り組み、対象の課題解決に向かって保健医療福祉チームの一員として自ら行動を開始し、多職種のメンバーと積極的に対話することができる	看護専門職として自発的に能力向上に取り組み、対象の課題解決に向かって保健医療福祉チームの一員として自ら行動を開始し、看護チームや他のメンバーと積極的に対話することができる	看護専門職として自らの課題に積極的に取り組み、自発的に能力向上に取り組むことができる	主体的に学ぶ意欲を有している
	多職種協働	看護職と他職種の専門性、職種間連携・協働のあり方の理解に基づき、保健医療福祉チーム課題の解決に向けて目標実現のための自らの役割を自覚し、看護専門職の立場から、地域の人々の関係主体と誠実かつ対等な対話により、円滑な意思疎通を図りながら協働できる	看護職と他職種の専門性、職種間連携・協働のあり方の理解に基づき、保健医療福祉チーム課題の解決に向けて目標実現のための自らの役割を自覚し、看護専門職の立場から、看護および他コースの学生と誠実かつ対等な対話しながら協働できる	看護職と他職種の専門性、職種間連携・協働のあり方の理解に基づき、保健医療福祉チーム課題の解決に向けて対象のケアに必要な情報を看護専門職及び他職種と共有できる	看護職と他職種の専門性を踏まえて、対象者を中心とするケアを考え、看護チームで情報を共有できる	看護職と他職種の役割・機能と職種間連携・協働の必要性を説明できる	多様な価値観を柔軟に受け入れ、自己の果たすべき役割を意識しながら他者と協働できる